

研究会便り

【HIS (Human-oriented Information Systems) 研究会】

主 査 川野 喜一

+++++

研究会では、研究や現場での実践の成果を学びながら、「人間中心の情報システム」であるための要件」とは何か、その仮説要件を探求する活動を行っている。

昨年12月2日に神奈川大学横浜キャンパスで開かれた第13回全国大会・研究発表大会で2017年の活動について報告を行った。学会の理念である“人間中心の情報システム”とは何かという問題意識を共有する参加者や、同じセッションの“IS技術者のためのpsytech研究会”および“情報社会の成育モデル研究会”のメンバから有意義なアドバイスをいただいた。また、今後両研究会と合同の研究会を持とうというご提案をいただいた。次年度の研究会活動で実現していきたい。

+++++

今後の予定

第8回研究会

日 時：2018年3月27日(火)14:00-16:00

場 所：青山学院大学 青山キャンパス

総研ビル（14号館）第12会議室

テーマ：「人間中心の概念について

～AIで問われるべき問題～」

講 師：西垣 通先生（東京経済大学コミュニケーション学部教授，東京大学名誉教授）

+++++

研究会連絡先：HIS研究会（学会 HP）

以上

【情報社会の成育モデル研究会】

主 査 原 潔

幹 事 田名部 元成

+++++

第11回研究会

日 時：2017年11月23日(木)13:00-16:00

場 所：ハロー貸会議室（川崎）

テーマ：「情報社会と情報システム」

概 要：

情報社会の意味するところを確認した。人々の生活が織りなされる場であり、個人の行為が蓄積されて生成する空間が社会である。情報社会は、ここでは情報処理技術（ICT）が情報処理機能に進化したごく最近の時代（コンピュータが広く社会に浸透し始める1950年代以降）を指すことにする。これまでの議論で情報社会を3つに分けた。

- (A) 世界を ICT に適合した観点で見る時期（1950年代～2010年頃）
- (B) 世界を情動的に考え始める時期（2010年頃～現在）
- (C) 自律した ICT システムが社会を担う時期（2045年以降）

現在、議論の必要があるのは、(A)から (B)への社会の変化をどうとらえるかである。

+++++

第13回研究発表大会での発表

日 時：2017年12月2日(土)17:10-17:30

場 所：神奈川大学

テーマ：「情報社会の成育モデル」

概 要：

情報社会における個別具体的な問題群を

俯瞰し、情報社会を「情報」によって既存社会の基盤、枠組みそのものを斬新的に根本的に組み換えた社会ととらえる。情報社会がどのようなメカニズムで成り立ち維持されていくのかを探る。そして問題群の解決の有効性を評価する手段としての「情報社会の成育モデル」を構築する。取り組みに関し昨年度行った中間報告のその後の議論を報告した。

+++++

第12回研究会

日 時：2018年2月17日(土)13:00-16:00

場 所：IVTTOWE川崎会議室

テーマ：「情報社会の成育モデル」

概 要：

情報社会/情報システムの捉え方は、人、時代、地域によって異なっていて、必ずしも共通の理解を得ている現状ではない。社会観、システム観の変遷の中で何が変わってきているのか、何が変わっていないのかを見極めていく必要がある。そのような異なる議論を共通の場で行えるようなフレームワークを考えていくことを確認した。

+++++

今後の予定

第13回研究会

日 時：2018年5月xx日(未定)

場 所：未定

テーマ：「情報社会の成育モデル」

+++++

研究会連絡先：

issj-gm@school-website.jp

以上